



帯広西ロータリークラブ

第2077回例会

会報

2015.2.5



■RI第2500地区テーマ■

誠心誠意

Service With Sincerity



■クラブ・テーマ■

「絆を重んじ、信じ合い、輝やけるクラブを目指そう」

2月結婚祝

横山 明美	会員(1971.2.3)
古田 敦則	会員(1988.2.14)
飯田 正行	会員(1989.2.11)
北川 勝啓	会員(1993.2.28)
久保 忠正	会員(2006.2.4)

親睦活動委員会

が、今日は「生き残ること」を題材に、お話をしたと思います。今日まで地球上で生き残ってきた生き物は、他の生き物に特別勝ったわけでもなく、地球の環境変化や氷河期や温暖期などを柔軟に対応し順応する事で、生まれ変わり、生き残ってきたとのことであります。弱肉強食という一面もありながら、生き残るために自然に対し自ら変化することで順応しながら、進化してきたとされているようです。環境に対して共存共栄する事で、お互いの領域を侵さないで生き延び繁殖してきました。また、全てが生き伸びて繁殖していくわけではなく、淘汰されたりもします。有利な性質を持った者がより多くの子孫を残し、保存され蓄積されることによって進化が起きるとされています。チャールズ・ダーウィンは進化論で「この世に生き残る物は、最も力の強い物、また最も頭の良い物、そのどちらでもない。それは変化に対応出来る生き物だ。」ということ唱えています。そして、結論としてはあらゆる生物の中で、進化論に一番当てはまらないのが人間だと言っています。

2月誕生祝

久保 忠正	会員(1940.2.12)
三野宮 功	会員(1951.2.15)
田中 利昭	会員(1952.2.17)
江口 文隆	会員(1956.2.18)
小谷 典之	会員(1962.2.20)
萱場 誠一	会員(1963.2.10)
河合 敏	会員(1963.2.10)
米田 慶司	会員(1974.2.21)

乾杯

親睦活動委員会 鎌田裕樹会員



会長報告

皆さんこんにちは。

本日は、川田ガバナー補佐公式訪問例会、および社会奉仕委員会担当の「大震災から災害看護まで」と題して講演を頂きます。ゲストに帯広市役所健康推進課、課長補佐永井雅姫様にお越しいただき、後程ご講演いただきます。宜しくお願いたします。

前回は人を育てることに関する話をしました

平田利器会長



そして突然変異は欠陥を生むが進化もしない、俗にいうノアの箱船では無いとされています。今日存在している生存競争は無視することのできない現実なのであります。遺伝する変異、存続を巡る争い、自然の選択、この3原則が生物界の有様だと言われている。

現在の厳しい社会情勢環境において、同様に対処し順応していかなければなりません。生き残りをかけながら全ての事柄に向かい、柔軟な姿勢を持ち今の環境に負けずに、生き残りをかけていきたいものだと思います。皆様の仕事においても同じことが言えるのではないのでしょうか。以上で、本日の会長報告とします。



会長 平田 利器
幹事 天野 清一

副会長 佐々木和彦
副会長 飯田 正行

会場監督理事 堂山 啓太
プログラム委員理事 久保 且佳

発行：広報委員会
委員長 森 房明 (副)立崎 貴之



会務報告

天野清一幹事



①帯広RC、2月11日(水)の例会は、祝日のため休会と致します。

②帯広5RC・芽室RC・音更RC、7RC合同例会開催のご案内

日時 2月13日(金)

午後0時集合

場所 ホテル日航ノースランド帯広

講師 石澤良昭氏

(歴史学者(第13代上智大学学長))

～スケジュール予定～

・12:00 会食 12:40 講演

・12:30 例会 13:30 終了

※尚、帯広東RC、2月10日(火)の繰下げ例会と致します。

帯広西RC、2月12日(木)の繰下げ例会と致します。

帯広南RC、2月16日(月)の繰上げ例会と致します。

帯広RC、2月18日(水)の繰上げ例会と致します。

③帯広東RC、夜間例会開催のご案内

日時 2月17日(火)午後6時30分

場所 アパホテル帯広駅前

④帯広西RC、夜間例会開催のご案内(創立記念例会)

日時 2月19日(木)午後6時30分

場所 北海道ホテル

⑤帯広RC、創立80周年記念式典開催のご案内

日時 3月11日(水)午後5時より(記念式典)

場所 ホテル日航ノースランド帯広

ニコニコ献金

披露 松見委員

久保 忠正 会員

昨日2/4は9回目の結婚記念日でした。当ホテルでお祝いをしました。

佐々木嘉晃 委員長

本日は、社会奉仕担当例会です。宜しくお願いします。

川田 章博 ガバナー補佐

IMがいよいよ近づいて参りました。ホストクラブとして、宜しくお願い致します。

佐藤 聡 会員

無事ギブスがとれました。



川田章博ガバナー補佐挨拶

川田章博ガバナー補佐

故川上哲平IM実行委員長への想いと併せ、西クラブあげてのIMへの協力依頼。そして新鈴木IM実行委員長のご紹介と、本年度のIMへの新たな取組を説明する、川田ガバナー補佐



鈴木享新IM実行委員長挨拶

鈴木享新IM実行委員長

故川上哲平会員の後を受け、実行委員長としての自分の役割(ベンチ)について語り、メンバーへの協力をお願いする鈴木実行委員長



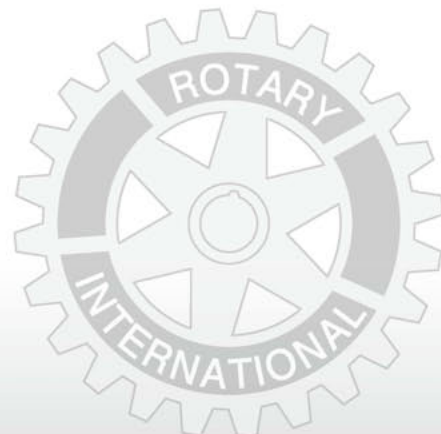
ニコニコ
献金

2月5日

12,000円

累計

457,221円 (2月5現在)



西ロータリーの皆様、こんにちは。本日は、帯広市役所健康推進課課長補佐の永井雅姫（まき）さんに来ていただき、講演を行います。永井さんには以前にも帯広市と瀋陽市の交流の件でお話いただきました。今回は、「大震災から災害看護まで」という題で、永井さんが大震災の後現地に行ってご活躍された活動についてご講演を頂きます。



現在、北見の日本赤十字北海道看護大学の修士課程に在籍され、朝の5時に帯広を出発する生活をされています。また、非常に国際派で、青年海外協力隊で2年間ボルネオにおいて活動もされており、我々に多くを学ばせていただけたと考えております。本日、時間は少し短くなりましたが、宜しくお願い致します。

「大震災から災害看護まで」

帯広市役所健康推進課 課長補佐 永井 雅姫 様



皆様こんにちは。本日はお招きいただきありがとうございます。現在の私の仕事は、仕事をされている方々の健康を様々な検診を通じて、サポートすることを担当しております。皆様とは、その部分でお会いすることもあるかと思えます。また、現在2足のわらじを履いておりまして、日本赤十字北海道看護大学に在籍しておりますので、いわゆる女子大生でもあります。ここでは、災害看護に関して学んでおります。このきっかけになったことを、本日皆様にお話したいと思います。

東日本大震災の時、私は帯広市で看護師をやっておりましたが、「なにかやらなくてはいけない」という思いが強くなっておりました。そんな時に、岩手県のある自治体から保健師の正社員（職員）の募集があり、行ってみたいという気持ちが強かったのですが、年度末ということもあり調整が厳しく参加できませんでした。ただ、ゴールデンウィークに入り、岩手県宮古市に全国各地から集まった保健師が、担当の各自治体へ派遣されるという活動に参加する機会を得ることができました。私は、山田町というところの庁舎に寝泊まりしながら保健師として参加をしてきました。この時期はまだ余震が頻繁に起きていて、津波もこの合同庁舎のすぐ目の前まで来ていたということで、非常に心配しながらの作業だった記憶があります。寝袋を使用しても寒かったことを覚えています。



一番困ったのはシャワーで、電気も利用できましたが、お湯に関してはまだ安定供給されない状況でした。担当の山田町は、町がなくなった状態でした。さらに、火災が起きたのでほぼ燃え尽きた状況でした。役場は高台にあり、助かりました。

やった作業としては、被災した方々が集まっている場所をまわり、いろいろな状況を確認することでした。また、各自の自宅に住んでいる方もいらっしゃったので、戸別訪問も地図を使って回っていました。ただ、北海道と違い、北海道のように町が整理して作られていないため、非常に苦労しました。ただ、回っていると訪問先の方々から、北海道や遠いところからありがとうと、感謝をされたのを覚えています。

苦勞したことの一つに、東北の方言でした。若い方は大丈夫でしたが、年配の方の言葉がわからず苦勞したのを覚えています。他には、通常のデスク業務にも、苦勞がありました。作業の報告書も書く場所（机）などなかったの、床で書いた記憶があります。そんななかでも、色々な方からの励ましのメッセージに支えられました。有名な方も多かったのですが、長嶋監督のものが印象にあります。

二本松市は原発の関係で浪江町からの避難した方がきていた場所です。海外青年協力隊の訓練所が実はこの市にありまして、ボルネオに赴任する前に三ヶ月訓練を受けたという不思議な縁もありました。

仮設住宅も回りましたが、その付近に人が歩いていませんでした。夏は暑く冬は寒い仮設住宅に今も住んでいる方々が多くいます。

復興などに関しては、色々やり方などアドバイスをもらうことも多くあります。しかし現場でいっぱいになりながら作業をしている人たちのことがわかると、どのようにすべきなのか。色々なアドバイスは、そのとおりの部分もあるのですが、実際に困っている人々の前でそれが良いのかどうか、悩むことも多くありました。そのようなことが、考えるきっかけになり、大学院に行って学びたいと思うようになりました。

大学院では、一泊して極寒の中で様々なことを学ぶ研修がありました。その中で、生き残るためにも特に北海道では必要なことで、このような厳しい環境の中で、災害支援をする訓練を行いました。このような備えは非常に重要だと強く感じました。是非、本日に帰って、電気が止まり厳しい環境になったらどうしたらよいか、ご自分の環境でお考え頂ければ幸いです。

私は後一年修士課程が残っておりますが、終了したらまた途上国へ行って泥だらけになり活動してみたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。



長嶋終身名誉監督のメッセージ



赴任当時の岩手県の様子



合同庁舎での作業の様子



山田町の仮設庁舎



仮設住宅の人通りがない状況